第六感

臨床工学科支部　永田和之（1 期生）

私には結婚して今年で 14 年になる妻がいる。私の妻には少し人とは違う特異な能力が存在する。俗にいう第六感である。先日、妻が運転する車で走っている時に私は助手席に座っていたのだが、突然私に話しかけてきて、「後ろのオープンタイプの BMW って後席ってある？」って聞いてきた。私はミラー越しに後ろの車を見て「あの車は２シーターだから後ろの席はないよ」と答えると、「だよね」と言いながらも助手席に人が乗っているか私に聞いてきた。私は疑問に思いながらも助手席に人がいないことを伝え、「なぜ？」と聞くと妻から助手席の後ろに女性がいるというのです（しかも少し透けているらしい)。後ろのドライバーに気を使いながらおそるおそる振り返ると当然のことのように私には全く見えません。妻に「今、どんな？」と聞くと、助手席ではなくドライバーの後ろに移動していて長い髪が風でなびいていると答えが返ってきました。道はもうすぐ片側２車線になります。後ろの女性がどうやって張り付いているのか気にはなるのだが､BMW に追い越されると非常に気味が悪いので追い越されないように注意しながら、私たちは急ぎ足に脇道へと逃げるように迂回した。その後その BMW がどうなったのかは不明である。私には第六感などはまるでなく、未だにそのようなものの存在を信じている訳ではないが、以前こんなエピソードがある。私と妻の二人で外国旅行に行ったとき、飛行機に搭乗する段階で突然妻の気分が悪くなり、顔が青ざめ「この飛行機には乗りたくない」と懇願されたため、別の飛行機に振り替えようとした際、この飛行機は機体トラブルにより運行停止になってしまった。妻と言えば別便への搭乗が決定した時点で、今までの体調不良が嘘のようにすっきりと気分が良くなっていた。これらを間近で幾度となく経験すると第六感の存在を否定することはできないような気分になる。妻の方は six sense を持つことを極端に嫌っており、私にもしこのような能力があれば妻と同じ気持ちになることには違いがないと思う。やはり知らないことは幸せである。ただ、私は人工心肺など患者の生命に直結する仕事を普段している。特に手術など予期せぬトラブルが発生する可能性もある。仕事中何となく予感を感じる場面もあり、これは第六感ではないがこの感覚を研ぎすませながら安全な業務遂行に努めて行きたいと思う。